

平成 27(2015)年 3 月 10 日

保護者のみなさんへ

横須賀市立武山小学校  
校長 高野 裕司

## 平成 26 年度 学校評価アンケート集計結果について

陽射しも明るくなり、日ごとに春の足音を感じる季節になってきました。

日頃より、本校の教育活動についてはご理解・ご協力をいただきまして感謝申し上げます。

さて、昨年 11 月上旬、4～6 年生の児童及び全学年の保護者のみなさんをお願いいたしました【学校評価アンケート】の集計結果がまとまりましたので、ご覧いただきたいと思えます。

これらのアンケートの結果から見えてきた今年度の教育活動の成果と課題を明らかにして、来年度に生かしていきたいと考えております。ご協力ありがとうございました。

### 記

1. 学校評価実施時期

平成 26 年 11 月 12 日～11 月 17 日

2. アンケート対象者及び回収率

保護者	483 名	(回収率 80%)
4～6 年児童	282 名	(回収率 87%)

◎次のページから、アンケートの集計グラフと考察をまとめましたので、ご確認ください。

※棒グラフは、左から順に「そう思う」、「少しそう思う」、「あまり思わない」、「思わない」、「無回答」を表しています。

※数値は小数点以下を調整しているため、100%に満たないグラフもあります。

## 【今後へ向けての改善方策】

「学力の向上と認め合い高め合う関係を築く力を

育てる授業づくり」

児童は楽しく授業に参加しており、教室内の人間関係が良好で、学習規律も身につけてきている。しかし、自分の考えを発信するなど能動的な活動は十分に発揮されていない。この原因を考察すると、児童のコミュニケーション能力の未熟さが考えられる。学力向上に向けて、学校では、児童が自発的にコミュニケーションをとりたくなるような教材、教具の効果的活用、授業の進め方の工夫などに取り組んでいきたい。

また、児童と保護者が家庭内で学校での出来事を話題とすることが、高学年になるにつれ少なくなっている。児童が思春期に差し掛かり、自分の体験を選択して伝えていくようになるのだろうと考えるが、家庭内でも児童と保護者とのコミュニケーションを大切にしていきたい。児童の発達段階や個人の主張を尊重しつつ、学校では、この点も配慮して保護者と連携し、児童と保護者の間で橋渡しをしていく必要があると考える。

## 「一人ひとりの教育的ニーズに応える支援教育の推進」

今年度も、教育相談支援部を中心に、多様化する児童の問題に対処する体制を作ってきた。保護者や児童からの相談を適切に処理するため、児童理解の輪を広げていくための手立てが必要である。その一つとして、児童に自信を待たせるための授業活動の工夫、指導力の向上および授業改善などがあげられる。専門性をもった人材からなる支援チームを構築し、来年度もさらに支援教育の推進に取り組んでいきたい。

